埼玉県

—新風土記—

岩波写真文庫 167

岩波写真文庫 167 埼玉県 ―新風土記―

編集　岩波書店編集部　名取洋之助
写真　埼玉県　岩波映画製作所

志木町附近

はじめに

巨大な都市東京に近接しているだけに、都会の色彩に支配されるのも当然なことである。埼玉県は東京都の北隣にあって、その衛星県になっている。このためか他県のように郷土色というものに乏しく、平凡な県といえるかもしれない。しかし東京都民の住宅地であり、保養地であり、また近郊農村地域である本県は、衛星都市という特色をもっているともいえるわけである。本書はこの埼玉県の姿をありのままにえがくことにつとめた。

目　次

定価 100円 1955年10月25日発行　発行者　岩波雄二郎　印刷者　米屋勇　印刷所　東京都港区芝浦2／1 半七写真印刷工業株式会社 製本所　永井製本所　発行所　東京都千代田区神田一ッ橋2／3 株式会社岩波書店

埼玉県歴史・産業地図

秩父　熊谷　深谷　本庄　行田　川越　大宮　浦和　所沢　川口

大利根村附近

埼玉の名の起源は、はっきりしないが、「万葉集」では「さきたま」と読ませ、幸魂(人の身を守り幸福を与えてくれる神のはたらき)をあらわすという。総面積三、八〇三平方粁、南に東京都をひかえ、六県と境している。県下の四分の三は利根川・荒川及びその沖積地であり、くまなく耕地化され、主穀・野菜の産出が極めて多い。また南に東京都という大消費都市を控えているので、近郊農村的な色彩も濃く、事実、東京都が一日に消費する野菜の二割を毎日のように出荷している。工業は京浜工業地帯の一環というだけで、鋳物・セメント・伸銅などのほか、みるべきものはない。東京から僅か一時間で往復できる県庁所在地浦和、人口第二の都市大宮などの一帯は東京へ通勤するサラリーマンの住宅地となっている。彼等は買物を東京で済ませるので、県内に金を落す機会がすくない。しかし一方、その子弟は毎年増加し、学校をいくら増やしても足りないという。県庁所在地に汽車がとまらぬ処は日本で浦和だけだ。大宮は東京行電車の始発駅といった方が良さそうだし、埼玉県の政治も経済も東京と切り離しては考えられない。

秩父連山．三峰口上空より富士方面をみる

秩父山地

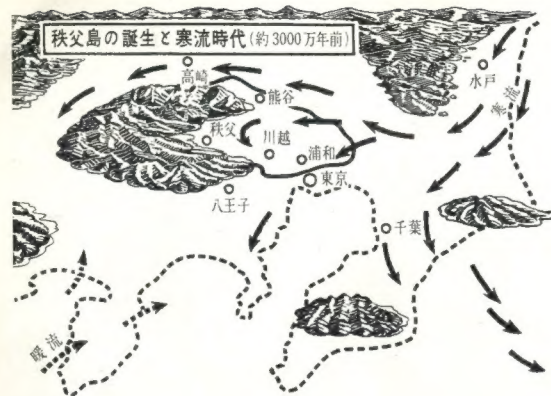
関東地方の西部にある秩父山地は埼玉県の西の境である。東は丘陵地帯を南北に走る断層線、北は山中地溝帯と呼ばれる断層地形、南西は金峰山や甲武信岳の高山、これらで囲まれた地畳状の地塊と言えよう。秩父山地は北方、東方へ次第に低くなり、荒川、多摩川が関東平野に流れでる。これらの河川が山地の表面を盛んに開析するため、山地全体は急峻幽谷、壮年期の地貌を見せる。秩父山地は地質学的には秩父系と呼ばれる古生代の岩石を含む古い地塊である。主に砂岩・チャート・珪板岩・輝緑凝灰岩・石灰岩・頁岩・粘板岩で石灰岩中には有孔蟲類・珊瑚・海百合・石灰藻などの化石が多い。中生代には白亜紀の地層が認められる。中新生代には第三系の地層が秩父、小川盆地に分布し、貝・魚類の化石が出る。

甲武信岳より金峰山方面を望む

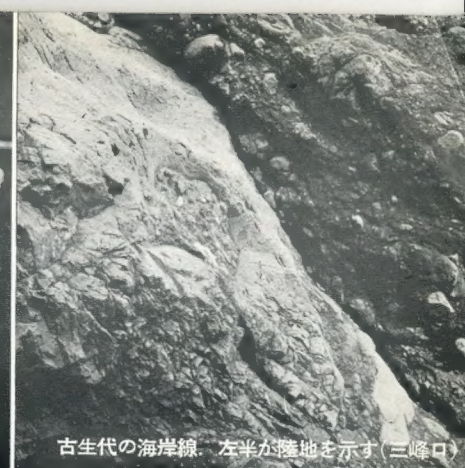
三峰山より盆地方面をみる

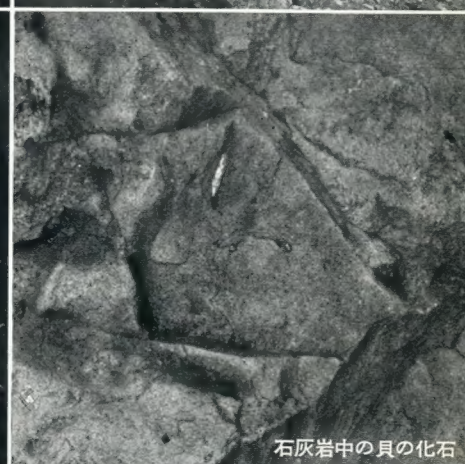
飯能上空より見た秩父連山

秩父自然科学博物館原図による

オウナ貝（大田村産）

秩父島・化石

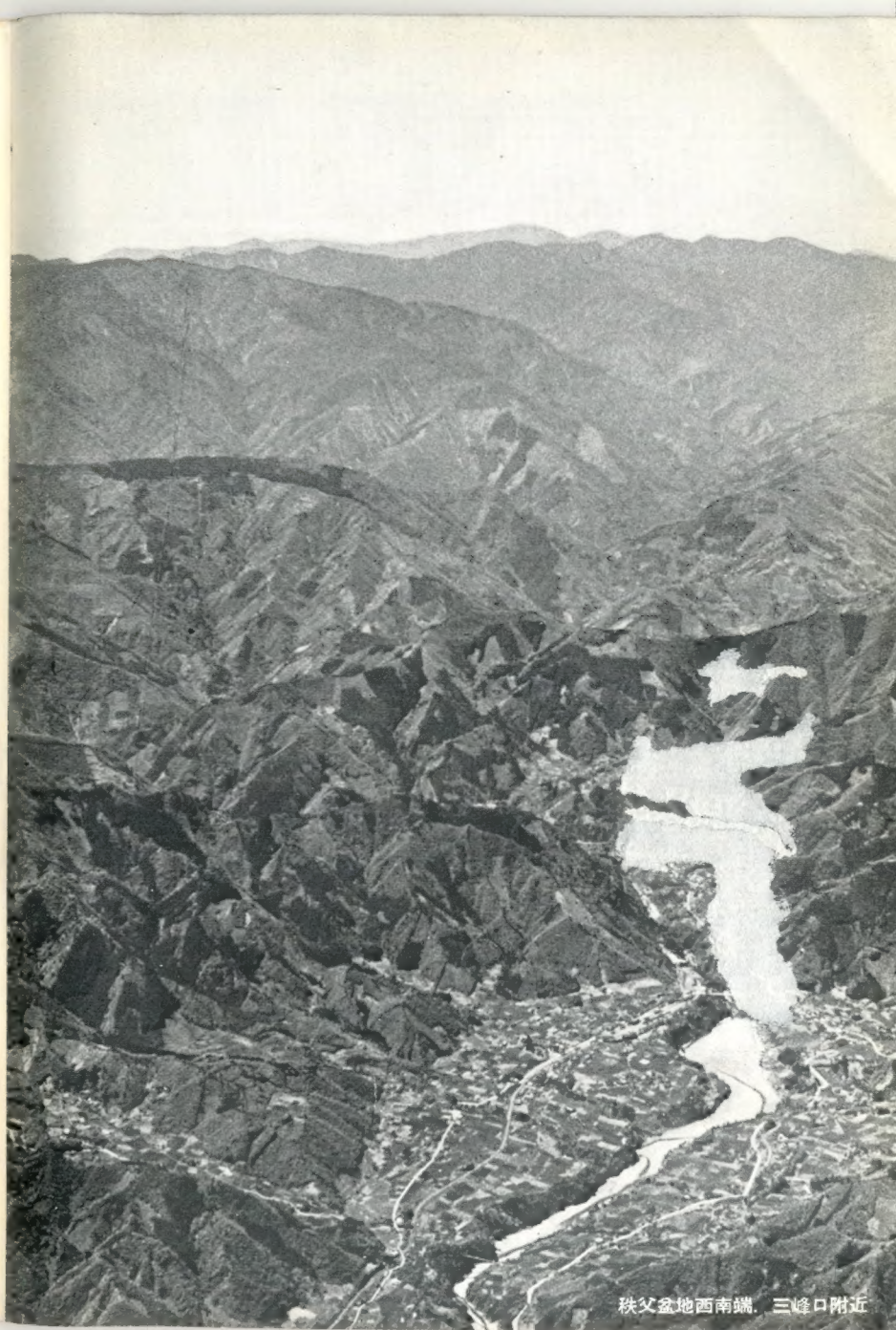
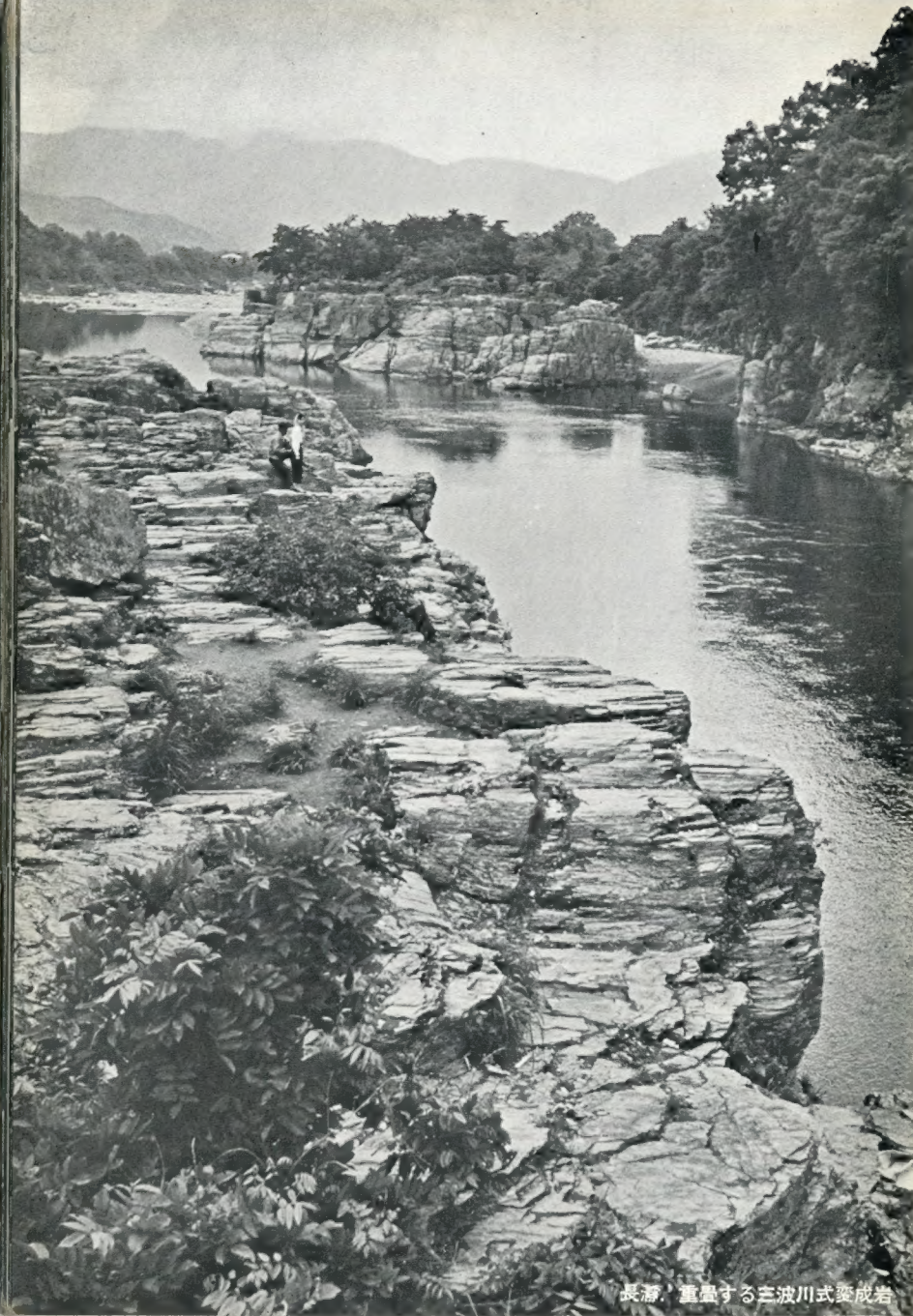
数千万年前の秩父山地は海中の一島で，秩父盆地も湾だった．勿論，東京湾もなく直接寒流が三峰口附近まで来ていた．つづく第三紀の間には造山運動が多く，秩父山地も隆起，海浜にいた生物は化石となった．化石には貝類・フジツボ・砂蟹など．隆起をした日本は大陸と地続きとなり，暖流に洗われた．鮫・珊瑚・象の先祖などの時代だった．関東平野は海の底で，気候は今の東南アジヤの暖かさ．つい最近，象の先祖のデスモスチルスの歯の化石が発見された．世界でも珍しい．

三角貝（三田川村産）

鮫の歯（皆野町国神産）

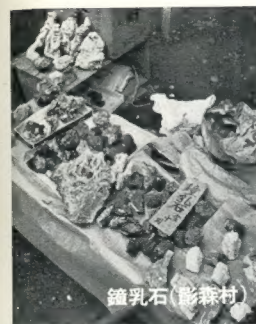
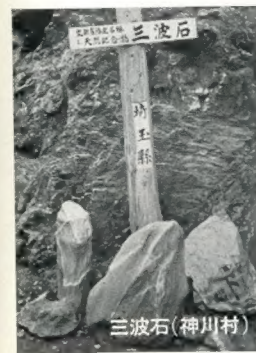
古生代の海岸線．左半が陸地を示す（三峰口）

かに（皆野町国神産）

石灰岩中の貝の化石

アンモン貝（三田川村産）

各種の巻貝（三田川村産）

長瀞，重畳する三波川式変成岩

鐘乳石（影森村）

長　瀞

瀞と懸崖と岩畳との総合された美を展開した長瀞は，観光と地質学の研究に著名な地．緑泥片岩・角閃石片岩などの塩基性岩や，石墨片岩・絹雲母片岩・紅簾片岩・赤鉄片岩などの珪質片岩を含む三波川式変成岩からなっている．山紫水明とたたえられる長瀞も飲料用の地下水には乏しい．ごく最近，ボーリングで水脈を探りあてたそうだから，茶店で水が飲めるようになるのも遠いことではあるまい．

三波石（神川村）

赤平川の段丘（小鹿野町）

小森川（両神村附近）

三峰口の荒川，ここから下流が秩父盆地

地質時代の海底地辷跡(両神村)

矢納発電所(神泉村)

砂防堰堤(横瀬村横石沢)

小鹿野用水取入口(小鹿野町)

土　地　改　良

秩父盆地周辺には断層が多い．地質時代に海底で地辷りして隆起した地形もある．盆地の荒川には豊富な水量は見られない．ごろごろした石礫ばかりだ．これは水勢のはげしい証拠．だから盆地の人は水を大切にする．台地の畑も麦と桑が多い．川を堰き止め水を台地にひいて収穫を高めようと努力する．谷間から山頂近くまで設けられた砂防堰は土砂の流出を防ぐのが目的．秩父一帯には砂防の堰が多い．

用水渠(小鹿野町)

秩父盆地から関東平野へ出る荒川．屈曲部は寄居町

秩父盆地の農家の母屋は白い壁．納屋がつく

秩父神社．知知夫彦命を祀る

古い農家のトバ．銘仙用生糸が吊ってある

牡獅子

秩父盆地の生活

約570年ほど前，楠氏の子孫がこの地に落ちのび，日光から簓(ささら)師数人を招き諏訪神社の祭りに踊らせたのが獅子舞のはじめという．牡獅子2，牝獅子1，花笠2に笛，太鼓を混える．ささらとは花笠のもつ竹製の楽器．各地の獅子舞もここが本家だそうだ．秩父の農家も生活改善運動で変ってゆくが，外観はほとんど変らない．冬の秩父颪をさけるため家々は谷に平行して棟をならべる．藁ぶきと板ぶきが半々，瓦屋根は少ない．

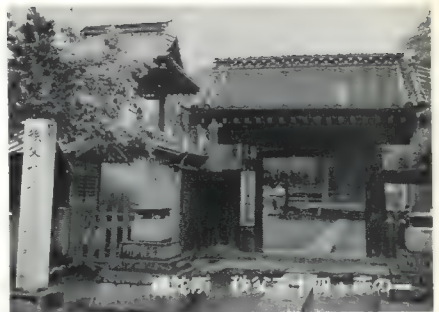
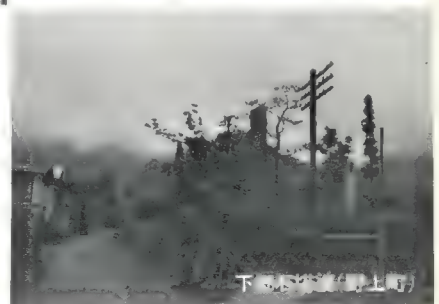
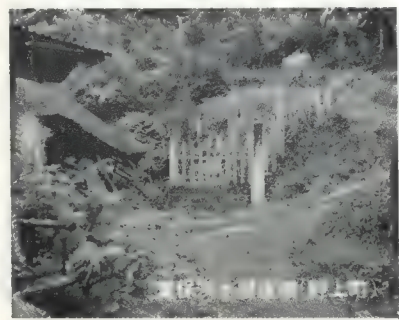
花笠

ささら獅子舞(両神村)

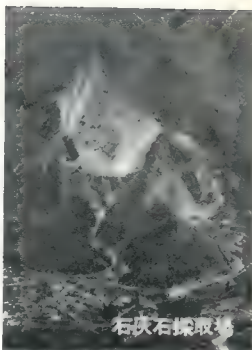
三峰神社　関東一修験道場

秩父の開発

本県の歴史は上州地方に接触した地域から起ったらしく、毛国「けのくに」といわれた上野・下野を中心にして開けた文化の影響を強く受けた。これと前後して崇神天皇の御代、知知父国造を置いたらしく、その当初に祀られたのが秩父神社と言われる。「成務記」五(一三五)年の条に「九月諸国に令して以て国都に造長を立て、県邑に稲置を置き、並に楯矛を賜ひて以て表と為す。則ち山河を隔ひて国県を分ち阡陌に随ひて以て邑里を定む」とあり、成務天皇は今の大宮市高鼻の台に无邪志国造を置いて、地方行政の基礎を作ったと言われる。上古秩父の国造が統治した範囲は今日の秩父郡は勿論の事、児玉・比企・大里・北埼玉各郡地方、即ち北武蔵の大部分

和銅採掘址（秩父市黒谷）

に亙っていたらしい。それが飛鳥時代(五五二―六四四年)に武蔵国に合併されて、武蔵の一郡となり、秩父郡は秩父神社を中心に秩父郡は次第に山の中にまとまったらしい。孝徳天皇は大化改新(六四六年)で新令により、臣連伴国造などを廃し、新たに国守(今の知事職)の制を定めた。武蔵二一郡に本県の殆んどがふくまれていた。国守の任務に管内百数十の神社巡拝があったが、巡拝の手間をはぶく為に総社(大国魂神社)を造った。然し秩父神社とか大宮氷川神社などの大神社への巡拝は欠く事が出来なかった。元明天皇二(七〇八)年一月一一日武蔵国秩父郡から朝廷に和銅が献せられ、年号を和銅と改め、日本最初の銅銭「和同開珎」が鋳造されている。この様に秩父の開発は、平野に先行し、上野地方に接した東部・北部には路が発達し秩父への道が早くからひらけた。大宝律令(七〇一年)で武蔵が東山道に入れられ光仁天皇宝亀二(七七一)年、東山道より東海道に属せしめたのは秩父の開発がすすんでいた事を示している。中世には所謂関東武士の発祥地であった。本県で最初に城下町となったのは北条氏の居城、鉢形城であったらしい。鉢形城は文明一〇(一四七八)年太田道灌に、永正九(一五一二)年、長尾景長の攻城にあった。中世に於て戦乱の巷をのがれ、秩父の山中に隠田集落を作った者も多い。江戸時代には雁坂峠・十文字峠の道が開拓され、慶長一九(一六一四)年に栃本関が設けられ、四国八十八ヵ所にならい秩父三十四ヵ所が開場した。三峰神社の歴史も古く、宮本武蔵二刀流開眼の地とも言われている。

セメント工場(秩父市)

銘仙工場(秩父市)

花火製造(横瀬村)

石灰石採取場

秩父盆地の産業

秩父銘仙は第44代元正天皇の時，高麗人が入間(いるま)の山ぞいに養蚕を興し機織りの技術を授け，次第に秩父地区一帯に普及したのが始まり，現在，小幅 7,000 台，広幅 2,000台の動力織機を有し，銘仙の他，広幅織物も生産され年産額36億円．無尽蔵の原料を控えたセメント工業は年産70万屯．天正年間に伝来した花火は江戸の花火として隆盛を極めた．天保年間にはじめられたのもある．年額 7,000 万円以上．

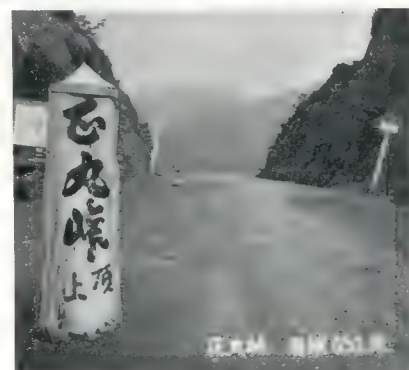
丘陵地帯

秩父山地北東隅の寄居町附近の荒川とその南には第三紀の地層があり、比企丘陵と呼ばれる。比企丘陵も秩父盆地と同様、山地の古期岩層と断層で接するところが多いようである。この丘陵の東端は東松山市の北方にまで伸び、北西から南東へかけて渓谷がよく発達している。比企丘陵の南では山地がほぼ南北の直線状の界線(八王子断層線)で関東平野域と分れる。この断層崖は著るしく開析されているので地形的には不明瞭なところが多い。ただ入間郡西部の飯能市と越生(おごせ)町との間では割合に明瞭で、界線が大体、南北に走り、約一〇〇米高の東方の平野域に対して、西方には二〇〇―三〇〇米の山地が迫り、その差は一〇〇―二〇〇米あり古い断層崖の観を呈し、入間郡西域は丘陵地状をみせている。

正丸峠　海抜651米

奥武蔵、川は高麗川（県立自然公園）

飯能市、背後を断層線が南北に走る

奥武蔵一帯、高さは約100～200米

比企丘陵の溜池群 江戸時代に開発したものが多い

世界無名戦士墓（越生町）

丘陵地帯の文化

小川町，越生（おごせ）町，飯能市など丘陵に沿った町は水がとても豊富だ．それは丘陵下縁から浸み出る地下水のためである．けれども丘陵の上部は水に乏しい．この地帯の開拓のために，江戸時代に沢山の溜池が設けられて今でも利用されている．狭山湖は昭和9年に出来た東京都水源地で，多摩川から水をひく．容量3,435万立方米，都民22日分の飲料水．戦後できたユネスコ村は狭山湖一帯を遊覧地化した．

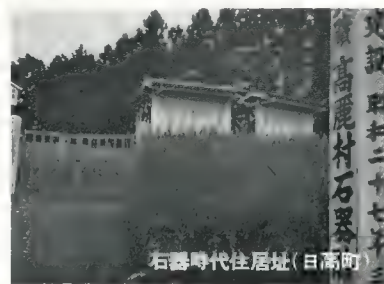
飯能町

狭山湖　東京都の水道源

ユネスコ村

名栗川 [illegible] トランク（飯能町）

帰化人の文化

県内で発見された最も古い住居址は山麓地方の台地にあり貝塚が附近にある場合が多い。これは当時、東京湾が深く入り込んでいた証拠である。住居址は竪穴式住居址が多い。しかし歴史上の文献と遺跡・地名などで知られる古い集落は条里集落である。大化改新(六四六年)で平野域には班田

石器時代住居址(日高町)

収授の制度が実施された。上代では朝鮮半島から渡来した帰化人は本県内にも入った。六六八年、高勾麗が亡んで、多くの高麗人が日本に亡命した。元正天皇霊亀二(七一六)年五月一六日、駿河・甲斐・相模・上総・下総・常陸・下野七国の高麗人、一、七九九人を武蔵国に遷して高麗郡を置いたことが続日本紀に記されている。この時、高麗人を率いたのが高麗王族若光で、

国宝　高倉観音堂(豊岡町)

今の入間郡日高町を中心に田畑の開拓・機織り・建築・製紙法・鍛冶・瓦の焼き方など新しい武蔵文化をひろめた。中でも登窯はトンネル状の細長窯で、山の傾斜面を利用したのもあり、千度の高温にも耐える窯であった。その後、武蔵の地には淳仁天皇天平宝字二(七五八)年、四(七六〇)年をはじめ数度にわたり新羅人が配されている。時は流れ鎌倉時代に、仏教は新宗派の勃興により隆盛をみ、諸国の廃寺も復興した。天台宗慈光寺は、古く白鳳年間僧道忠創建と伝えられる名刹で、鎌倉時代には慈光寺経として名高い百数十巻の経典が写された。江戸時代には台地の開拓と相まって、児玉・小川・飯能などの渓口集落ができ、市場町として栄えた。

西川材．足場丸木が多い（飯能市）

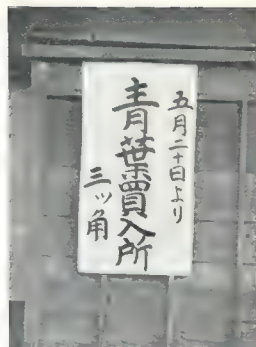
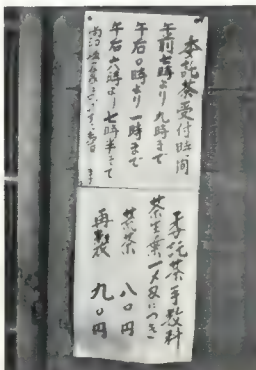
丘陵地帯の産業

小川町は和紙の産地．障子紙をはじめ数種類を生産する．操業戸数260戸，年産5億円．土佐紙・美濃紙について第3位．数人でやる家内工業だ．県立製紙工業指導所では技術指導をやって業界の向上発展をはかっている．本県は長野・群馬に次ぐ養蚕県，産繭額は年平均290万貫．西川材は飯能市の西方から伐り出すのでこの名がある．足場丸木が多く東京へ移出する．越生町のウチワは特産の一つ．

製茶加工（[illegible]研究所）

手もみは高級品．1貫目つくるのに1人1日かかり

大量加工…水分も動力で抜く

狭　山　茶

狭山茶の起源は栄西禅師が入唐帰朝の後，茶種をこの地方に播いたのがはじまり狭山茶とは入間郡豊岡町・川越地方を中心とする産地の茶の総称であり，宇治・静岡茶と共に三大銘茶の一つ．主として国内向けで東京・東北が多い．茶園面積1,755町歩．年産額40万貫，6億円である．茶の種類は抹茶・煎茶・番茶など中級品が多く，大半は機械製茶で手揉みは高級品である

狭山茶　国内[illegible]

[illegible]抜き　[illegible]

茶摘みは5月からはじまる

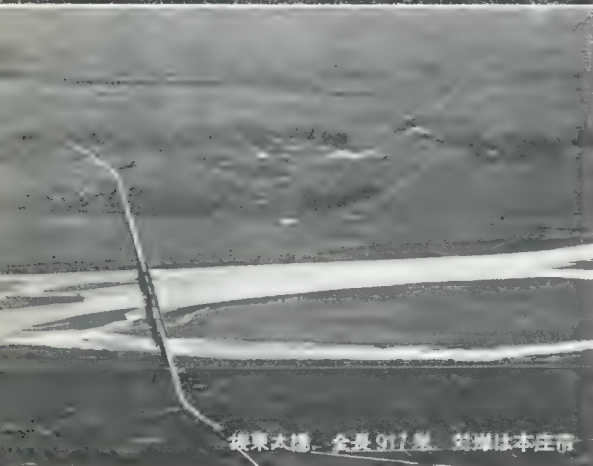
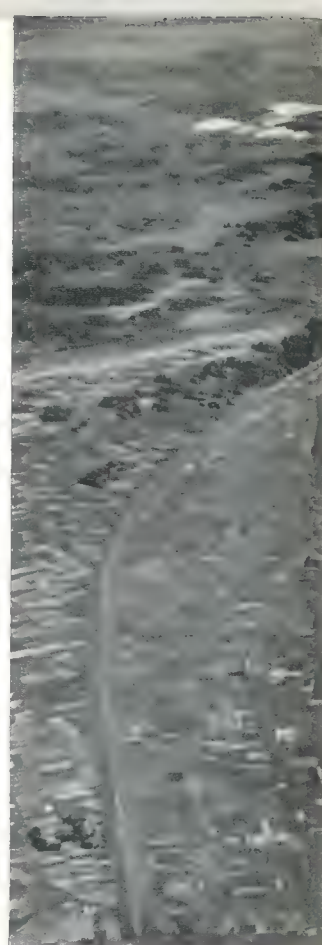
荒川．流路延長 180 粁．流域面積 2,511 平方粁

荒川大橋　手前は熊谷市

[illegible]合橋と三河合流点．左より入間川・小畔川・越生川

六堰ローリングダム

荒川

荒川は甲武信岳（二、四六〇米）に源を発し秩父盆地を貫流し、寄居町より本県の中央平坦部を流れて東京湾に注ぐ埼玉県の生命線ともいわれる川。流路延長一八〇粁、流域面積は二、五一一平方粁に及ぶ。荒川は其の名の如き荒れ川で、昔から上流地域は広大な氾濫地をもち、江戸時代はもとより近代に入ってからも屢々洪水を起し、その都度埼玉・東京に大損害を与えた。荒川の堤防の間隔は広い所で二、五〇〇米、狭い所でも五〇〇米を下らず、この間を僅か五〇米乃至七〇米幅員の平水流路が続き、堤防と流路の間には人家が散在する。ここを利用して遊水池とし水勢・流量を調節するため横堤を施工したが、昭和二二年九月のカスリン台風では、計画流量（五、五七〇立方米毎秒）を上廻る洪水に見舞われた。

県の北境. 利根川(別の名を坂東太郎)を上流よりみる. 右岸[illegible]

利根川

[illegible]大橋

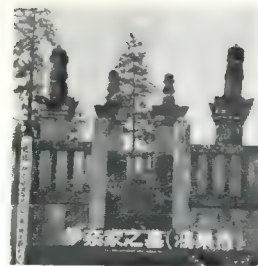
利根川は上越国境、大水上山に源を発し上野・下野・常陸・武蔵・下総・上総の六ヵ国にまたがる大河である。流域面積一七、九四四平方粁、更に支川二三九と派川二二を含めると四、八〇五粁、年総水量一二〇億トン、降水量(一九五三年湯原で一、九六五粍)との比率(流出率)は〇・六となっている。利根川が流域の小さい割に水量が多いのは、この流出率が著しく高いためである。利根川は関東一円二二万町歩の水田を灌漑し、一三・五五立方米毎秒の飲料水を供給し、内地の一割に及ぶ電力を発している。一般に日本の河川は洪水量が多く、昭和一〇(一九三五)年の洪水では利根川の最大水量は〇・九五万立方米(栗橋)、昭和二二(一九四七)年のカスリン台風で一・四万立方米(川俣)に達した。

渡し舟(大利根村附近)

坂東大橋、全長917米、対岸は本庄市

江戸川関宿水門

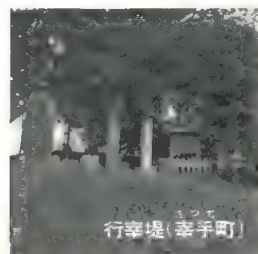
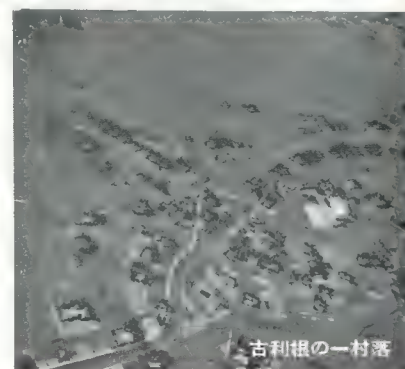
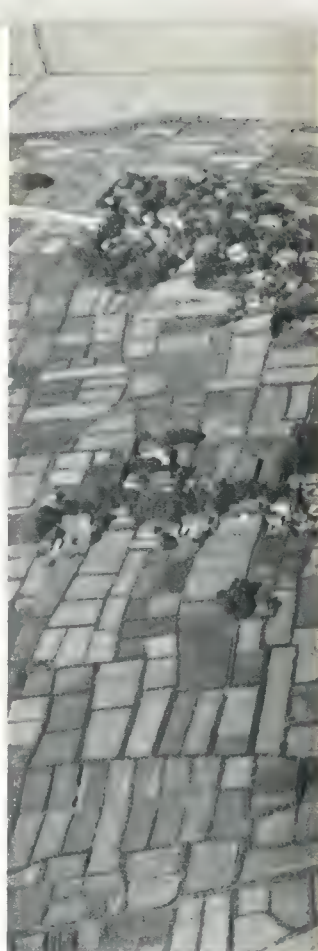
伊奈家之墓（鴻巣市）

洪　　水

日本各地で毎年きまって見舞われるのが洪水．政府の災害補助金も予算のうちで初めから覚悟の訳だ．江戸に幕府がひらかれて，徳川氏は東京湾に注いでいた利根川を太平洋に向ける工事を計画し，その任にあたったのが伊奈備前守で忠次・忠治・忠克と親子三代にわたり，堤防を築いたり用水を開さくしたりした．今の利根川の流路もその時できたもの．今から 300年も昔の話である．行幸堤は洪水の折，利根の逆流を防ぐため明治 8 年18,400円で築造．昭和22年のカスリン台風の惨状は脳裡にあたらしい．のち，出水を未然に知る水位警戒無線予報網ができた．

行幸堤（幸手町）

葛西用水(1660年)

見沼用水(1728年)

灌　　　　　　漑

埼玉県の半分以上を占める関東平野は江戸時代以前は荒漠たる荒地だった．徳川氏は本県を江戸への物資供給の地として直結させたため，利根川・荒川をはじめ江戸川・新河岸川・入間川などの治水に力を注ぎ，同時に葛西用水・見沼用水・備前堀など用水を開発して灌漑と通船に便ならしめた．埼玉県の耕地面積15万町歩，総面積の38.5%，農業人口は県全体の49%を占め，110万人，関東の代表的農業県だ．湿田は水田面積の62%，4万町歩でなやみの一つだ．

関東平野

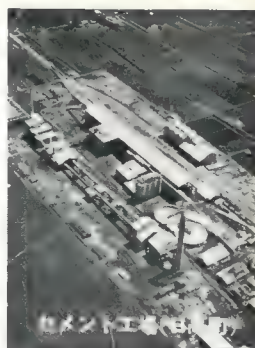
関東平野は一つの開析台地である。高さ約二〇米から一五〇米に至る台地と、この台地が多数の河流で開析されて出来た渓谷、即ち沖積地とから成る。沖積地は高くて二〇米位で利根川、荒川などいずれも蛇行して流れている。この表面は極めて平坦、緩傾斜であり、水田地帯が多い。県西南域は武蔵野台地にかかり、さきの台地より更に一段高いやや開析のすすんだ段丘が発達している。これは関東構造盆地（栗橋町附近を中心として同心円的に緩慢な傾斜をもったまるい窪み地形）周縁の段丘で、その表面は関東ローム層で覆われている。坦々とした平野の道に車を駆っても変化はないが、空から見れば変化に富んでいる。海をもたない埼玉県の街々が水や、街道に沿って栄えているのも当然のことである。

古利根の一村落

ジョンソン基地（豊岡町）

[集]落．白いのはビニール温室

鉄道沿線の広告（浦和附近）

セメント工場（[illegible]）

空から見た平野

埼玉県の人口は昭和29年1月1日現在224万人で，そのうち平野には80%以上の人が住んでいる．平野の集落は大てい屋敷森で囲まれている．それは冬，上信越の山脈を越して太平洋側に吹きおろす関東の空っ風，秩父颪とか赤城颪とか言われる強風からまもるためだ．冷たい北西風を防ぐために農家の北側から西側にかけて，屋敷森を仕立てている．これは関東の集落に特色をそえるものだ．春はほこり風で冬の季節風から夏の季節風に交代する時期にあたり風向は北または南で相当強い．しかも武蔵野台地は表面がローム層で砂塵を巻き上げる．さえぎるものがない平野では街道は真直ぐに伸び，少しでも小高い丘の麓には町が出来る．海をもたず基礎工業に乏しい埼玉県では，平野に大資本産業を誘致するのに懸命だ．

東松山市（人口[illegible]）[西]方より見る

吹上町（人口8千5百）

奈良時代と推定される住居址(川越市)

関東武士

紀元三世紀ごろから七世紀にかけては古墳時代といい、各地に厚葬時代が出現した。大化改新(六四六年)で中央集権制がしかれ、国司が国ごとに派遣される前は、大和朝廷により地方豪族が国造として在来の勢力を維持することが承認されていた。行田市埼玉地区に古墳群があるが、これは豪族の勢力を物語るものである。形式には円墳と前方後円墳があり、前者は古墳文化初期の様式、後者は中期様式とみられる。丸墓山は円墳では日本一の規模をもつ。八幡山古墳も円墳であるが外部の形式より内部構造に重点を置いている点から古墳時代末期と推定される。東松山市東方の吉見百穴は当時の横穴式集団墓地と考えられている。大

埼玉古墳群 丸墓山(行田市)

古代の集団墓地 吉見百穴(吉見村)

化改新後、国造は廃され、国守が任命され国府が多摩川流域の府中に置かれ、秩父国も武蔵一国に統合された。あらたに大陸の制度が採用され、国守は各地に別府を置き、有名な班田収授の法を実施した。大里郡別府村(熊谷市)、南埼玉郡八条村はじめ各地に条里制の名残りがある。この頃から高麗・新羅との国交があり大陸の文物も紹介された。平安時代には国守、その一族がひそかに土地を開拓し、私有とし荘園をもち経済的実権を掌握し家の子郎党をかかえるようになった。武蔵七党、関東八平氏の本拠はいずれも荘園であった。鎌倉に源頼朝が幕府をたてた折、彼等はその功を称えられ守護地頭として諸国に散在土着し関東武士の名は広く残った。これから武家政治が続いたが、経済上の権利、中央集権の争奪、関東管領などの対立抗争が絶え間なかった。これが戦国時代で、忍・川越・岩槻・岡部の諸城もこの頃に築かれた。北条氏を亡ぼした豊臣秀吉は関東を徳川家康にゆだね、家康は江戸幕府の近接地である本県一帯に諸大名を配して固めた。川越喜多院書院は江戸城紅葉山別殿を移建した江戸城唯一の遺構である。江戸幕府は本県を江戸物資供給の場として利根・荒川などの治水に尽力した。県内各地の産物は、この時代に興ったものが多い。江戸への物資供給の宝庫となるにつれ名主、代官は富裕となり、文人墨客の出入も多くなった。慶応三(一八六七)年徳川慶喜の大政奉還、つづく廃藩置県、明治九年、埼玉県・熊谷県・千葉県の一部を併せて埼玉県が生まれた。

八幡山古墳(太田村)

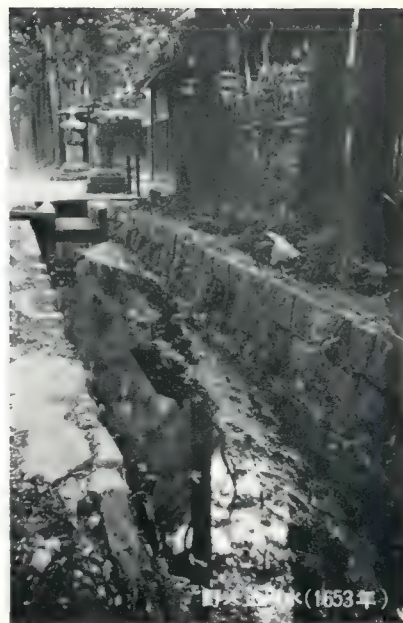
十条条里遺跡(美里村)

忍城址(行田市)

三富山多福寺

野火止用水(1653年)

県南の開拓

県南の台地の新田集落は全国的にみて代表的な地域とされている。武蔵野台地のうち、入間郡から北足立郡南西部にわたる台地は江戸初期には未開拓地であった。この新田集落は川越藩主が行った比較的大規模で整った新田作りである。野火止開拓は承応二(一六五三)年川越藩主松平伊豆守信綱が行ったもので、同年の八月五五戸の農家を現在の北足立郡新座町野火止附近に入植せしめたが、台地は関東ローム層で井戸を掘るのは容易でなく飲料水にも不自由であった。その頃、松平伊豆守は江戸市民の飲料水として玉川上水を開き、多摩川の水を野火止へも引かせた。これを野火止用水と言う。しかし乾燥した武蔵野台地のために、野火止まで水が来たのは三年目であった。灌漑は成功し、寛文三(一六六三)年に岩槻から平林寺を移し精神的にも安住の地たらしめた。三富開拓は川越藩主柳沢美濃守吉保が元禄七(一六九四)年に着手した。当時この辺は数百町歩の原野と雑木林で附近二四ヵ村の農民が薪をとった管林で、柳沢氏の家臣曽根権太夫が設計した開拓である。三富は今の所沢市と三芳村にある上富・中富・下富で、最初の入植戸数は上富一四三戸、中富四八戸、下富五〇戸であったという。精神的な中心として三部落のほぼ中央に菩提所として多福寺、祈願所として多聞院をたてた。矢張り水に不自由な土地であるから、多福寺や多聞院の庭をはじめ十数ヵ所に井戸を掘った。村作りの方法はまず六間幅の開拓道路をつくり、これに沿って五町歩の土地を与えた。従って短冊形の所有地が並列したので現在でも地割の面影が残っている。街道は更に古くからひらけ、中仙道(蕨―大宮―鴻巣―熊谷―本庄)、奥州街道(川口―岩槻―幸手)、日光街道(草加―春日部―幸手―栗橋)などの街道が栄え、城下町として川越・行田・岩槻が最も栄えた。いずれも平野にあるため平山城または平城の築城方法をとった。

三富開拓地をめぐる道

平林寺

多聞院

栗橋関所址

浴衣染め(草加)

平 野 の 産 業 (一)

行田の足袋は忍城主，松平信綱が天草征伐(寛永14年)の折，持参したのが始まり．現在，年産 6,500 万足．全国の半分を生産する．被服産業も代表的産業，年産31億円，岡山県と競りあう．武具製作は関東唯一といい，剣道具・柔道衣が多い．レース工業は年産 600万ヤール，17億円．半分は輸出向け，農業県だけに農器具工業は盛んである．雛人形・鯉幟りも特産で，ドル稼ぎにアメリカへも行く．東京都の簞笥は本県産が大部分．

レース工場(上尾，[illegible])

農機具工場(川口，[illegible])

鯉幟製作(加須)

足袋工場(行田，[illegible])

武具製造(加須)

被服工場([illegible]，行田)

植木市、毎月[illegible]回市がたつ(安行)

志木町の苗木市、2・7の日に市がたつ

盆栽　これまで育てるのに2～3年かかる(大宮)

麦藁帽子(春日部)

平 野 の 産 業 (二)

植木とか盆栽村があるのも需要地東京をひかえているからだ．盆栽のうちには何十万円もするものもある．釣竿は輸出品として全国生産の80%．材料は県外産が7割を占める．麦藁帽子は麦藁を紐に編み，ミシンで加工する．深谷の瓦は奈良時代から使われ，最近年産額4億円．全国3位で関東随一．草加せんべいは昔，大名行列が草加に休憩の折，供された団子が粗末だったので，焼いて保存するようすすめたのが起りという．

釣竿(川口市[illegible])

製瓦工場(深[illegible])

[illegible]

草加せんべい

東京からは肥料を積んで帰る

自転車にのる行商人

斗はこぶカツギ屋(栗橋駅)

甘藍の収穫

近　郊　農　村

本県の野菜は殆んど東京へ出荷する．南瓜・西瓜・茄子・胡瓜・人参・甘藷・牛蒡・甘藍などが主．東京都民が１日に消化する野菜の量は50万貫，その中，本県からは毎日平均25%を出荷している．早朝東京へ出荷して，臭い話だが，肥料を車や肥船(こえぶね)で運び込む．出荷の際，競って売込むので県内の値段が高くつくことさえある．酪農・養鶏も大消費地東京をひかえて活発であり，県南には促成栽培のビニール温室も少なくない．

野菜市場は午後に競りが始まる

貨車で発送

製乳工場へゆく輸乳車

県南の都市

本県で人口一〇万以上の都市は浦和・大宮・川口・川越の四市で、川越以外はいずれも県東南域に集中する。三市とも都心からは国電で一時間以内に到着でき、東京の衛星都市の一環をなしている。浦和市は県行政の中心、県庁所在地で、大宮市はいわゆる国鉄の街であり、川口市は鋳物工業の街である。この三市から東京へ通勤するサラリーマンは非常に多く、東京の住宅地の色彩がつよい。したがって日用品なども

[illegible]口市(人口12万6千)、西方より見る

東京で購入するためか、三市にはデパートは一つもない。しかも一方、東京の近郊住宅地として発展しつつあるため、人口は年平均四％の増加を見せ、したがって就学児童は増加し、教室増加と並行できず、二部授業も多い有様であり、就学児童の多くは東京へ通勤するサラリーマンの子弟である。

大宮公園

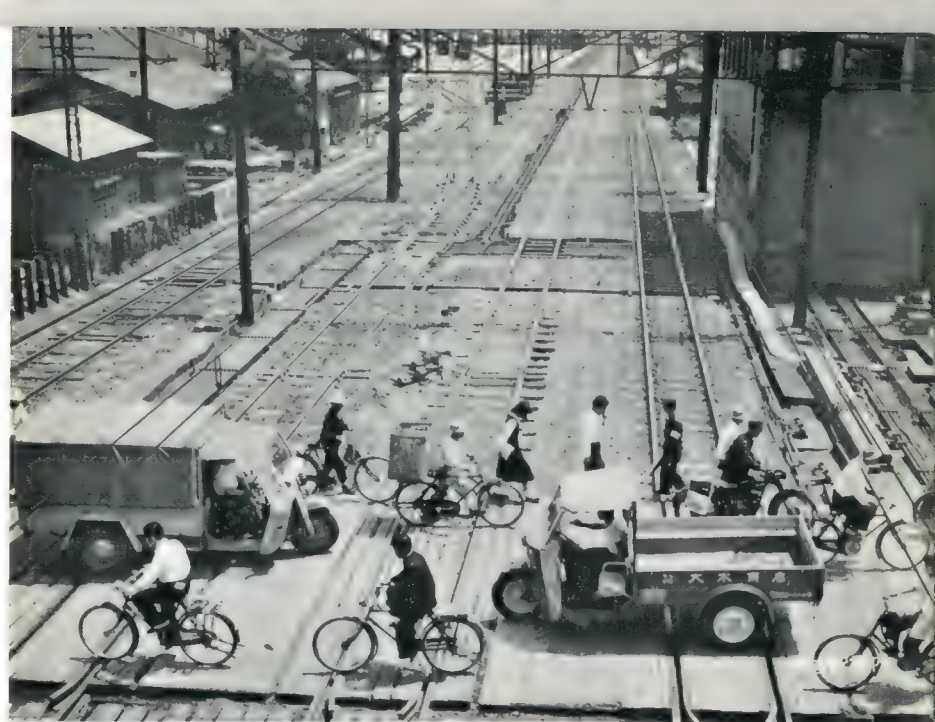
大宮一の繁華街 大宮駅前

大　宮　市

大宮市は交通の要衝で，東北・高崎本線の分岐点，国電（京浜東北線）は大宮が終点である．大宮国鉄工場は日本一の規模をもつ．人口14万2千，浦和市につぐ．鉄道の街らしく，廃車を利用した店が路傍にならぶ．名づけて'汽車のまち商店街'．東京都住宅地となったのは終戦後で，昭和29年には戦前にくらべ約50%の人口増加．これは東京都住宅地の遠心的移動をしめすものである．大宮公園には，氷川神社や県営グランドがある．

大宮国鉄工場

東京の住宅地となる西川口

荒川河原のゴルフリンク

川　口　市

川口市は鋳物の街，江戸時代から鋳物工場があったことが江戸名所図絵にみえる現在，大小工場500あまり月産8,000トンで愛知・大阪に次ぐ生産地．戦前は荒川の砂で鋳型をつくったが現在では知多半島の砂を混用する．小は日用品（15%）から大は工業機械（85%）を生産する．県立鋳物指導所では技術向上に努めている．西川口駅一帯は，今後発展してゆく東京の近郊住宅地で，土地周旋屋がならぶ．

ストーブの鋳型

浦和銀座．市内唯一の繁華街

自転車預り所

浦　和　市

浦和市は人口14万5千，県庁所在地でありながら浦和駅に列車はとまらない．日本中で列車が停車しない県庁所在地は浦和だけだ．一面全くの東京近郊住宅地で，サラリーマンのほとんどは東京へ出て行く．だから朝のラッシュアワーは物すごい．昼間の通りは人影がまばらで，デパートもなく浦和の人は東京へ買物に出かける．県庁舎は全国一の規模を誇る合同庁舎．工費8億余万円で工事進行中．国立埼玉大学は浦和市にある．

ガードを抜けると裏町

食料品は東京より安くはない

浦和駅

朝のラッシュアワー（午前8時）

わが家へ急ぐ（午後6時）

埼玉県の財政（昭和30年当初予算）
歳入 105億
国庫支出金 30.1%
その他 22.2%
県税 23.5%
地方交付税 24.2%
歳出 105億
教育費 45.6%
その他 9.7%
社会労働施設費 6.4%
土木費 6.7%
警察消防費 7.9%
県庁費 11.2%
産業経済費 12.5%
埼玉県の通貨の行方
一般消費者
月給
農業
商業
工業
金融
12%
25%
14%
7%
42%
16%
18%
9%
11%
46%
17%
20%
11%
9%
43%
14%
14%
15%
18%
39%
14%
14%
15%
18%
39%
昭23.6
昭24.6
昭25.6
昭26.6
昭27.6
民有地利用状況
宅地8%
山林27%
畠36%
田27%
その他2%
産業別人口（昭和25年）
56%
7%
5%
4%
17%
9%
1%
一一、二八六人
農業
サービス業
運輸通信業
公務員
製造業
商業
其の他
埼玉県人口動態
万人
7
5
3
1
出生
自然増加
死亡
昭和23
24
25
26
27

妻沼町附近

岩波写真文庫目録
1 木綿
2 昆虫
3 南氷洋の捕鯨
4 魚の市場
5 アメリカ人
6 アメリカ
7 雪の結晶
8 写真
9 レンズ
10 紙
11 蛙の一生
12 鎌倉
13 心と顔
14 動物園のけもの
15 富士山
17 いかるがの里
18 鉄
19 川
20 雲
21 汽車
22 動物園の鳥
23 様式の歴史
25 スイス
26 スキー
27 京都
28 力と運動
30 アルプス
31 山の鳥
32 奈良の大仏
33 尾瀬
34 電話
35 野球の科学
36 星と宇宙
38 長崎
39 高野山
40 正倉院（一）
41 彫刻
42 佛像
43 化学繊維
45 野の花
47 東京
49 石炭
50 桂離宮と修学院
51 日光
52 醤油
53 文楽
54 水辺の鳥
55 米
56 正倉院（二）
57 石油
58 千代田城
59 歌舞伎
60 高山の花
61 波
62 京都御所と二條城
63 赤ちゃん
64 オーストラリア
65 ソヴェト連邦
66 能
67 造船
68 東京案内
70 手術
71 宮島
73 佐渡
74 比叡山
75 阿蘇
76 信貴山縁起絵巻
77 針葉樹
78 近代藝術
79 日本の民家
80 季節の魚
81 シャボテン
82 新劇
83 郵便切手
84 かいこの村
85 伊豆の漁村
86 奈良
87 奈良
88 ヒマラヤ
89 上高地
90 電力
91 松江
92 動物の表情
93 金沢
94 自動車の話
95 薬師寺・唐招提寺
96 日本の人形
97 システィナ礼拝堂
98 美人画
99 日本の貝殻
100 本の話
101 戦争と日本人
102 佐世保
103 ミケランジェロ
104 空からみた大阪
106 飛騨・高山
107 ゴッホ
108 京都案内
109 京都案内
110 雅楽
112 東京湾
113 汽車の窓から
114 地図の知識
116 硫黄の話
117 伊勢
118 はきもの
119 隠岐
120 源氏物語絵巻
121 農村の婦人
122 出雲
123 アルミニウム
124 水害と日本人
125 日本のやきもの
126 貝の生態
127 イスラエル
128 伴大納言絵詞
129 瀬戸内海
130 飛鳥
131 聖母マリア
132 日本の映画
133 能登
134 山形県
135 福沢諭吉
136 利根川
137 鹿児島県
138 伊豆半島
139 日本の森林
140 高知県
141 チェーホフ
142 佛教美術
143 一年生
144 長野県
145 塩原
146 日本の庭園
147 木曽
148 忘れられた島
149 近東の旅
150 和歌山県
151 函館
152 豆
153 大分県
154 死都ポンペイ
155 富士をめぐる
156 神奈川県
157 柔道
158 戦争と平和
159 ソ連・中国の旅
160 伊豆の大島
161 ジョット
162 熊野路
163 鳥獣戯画
新刊
164 愛媛県
165 やきものの町
166 冬の登山
167 埼玉県
近刊
男鹿半島
フランス古寺巡礼
滋賀県 —新風土記—
B 6判 64頁 写真平均 約200枚 定価 各 100円
埼玉県の耕地利用状況
米 72,500
麦 63,800
蔬菜 19,300
甘藷 19,600
桑 15,400
ジャガイモ 7,800
その他食用作物
その他
8,500
5,800
総面積 21万町歩
（単位：町歩）
米 34%
麦 30%
蔬菜 9%
甘藷 9%
桑 7%
ジャガイモ 4%
その他の食用作物 4%
茶 3%
茶
荒川総合開発計画
水田
畑地
ダムサイト
増産石数 75,342石
灌漑面積
水田 9,612町歩
畑地 4,220町歩
本庄市
深谷市
児玉
利根川
大里用水地区
行田市
熊谷市
寄居
荒川
本畠地区
忍領地区
吹上
野上
波久礼発電所 出力 6,750kw
上長瀞発電所 出力 8,950kw
皆野
東松山市
鴻巣市
川島地区
入間川
秩父市
神岡発電所 出力20,600kw
塩沢
中津川
荒川
三峰口
強石発電所 出力8,500kw
吾野
川越市
川越地区
川滝
大洞川
二瀬堰堤 堤高100m 有効貯水量千万トン 湛水面積1.14kw²
入間川
飯能市

川口市近郊の田園